

十一 教育委員会

◎新規事業 単位:千円
○拡充事業

学校・家庭・地域連携推進事業費 79,382

地域住民等の参画による「地域学校協働活動」「えひめ未来塾」「放課後子ども教室」「土曜教育活動」「家庭教育支援」について、各地域の実情に応じて実施し、教育支援活動の充実を図る。

1 県事業

- (1) 学校・家庭・地域連携推進協議会(年2回)
- (2) 研修会の開催(事業別研修会)
- (3) 普及啓発
・「愛顔でつなぐ“学校・家庭・地域”の集い」 ・事例集の作成(公開・提供)

(国1/3 県2/3)

2 市町補助事業

- (1) 活動内容・運営方法の検討
- (2) コーディネーター、教育活動推進員、教育活動サポーター、家庭教育支援員等の配置
- (3) 支援活動の実施
・地域学校協働活動(78か所) ・えひめ未来塾(51か所) ・放課後子ども教室(85か所)
・土曜教育活動(10か所) ・家庭教育支援(8チーム)

(国1/3 県1/3(市町1/3))

○ えひめジョブチャレンジU-15事業費 8,393

中学生段階での望ましい勤労観、職業観の育成を図り、地域の魅力、良さを発見するため、職場体験学習を実施する。

- 1 ワーキンググループ会議の設置 受入企業等の掘り起し、情報提供等のサポート
- 2 キャリア教育担当者研修会の開催 全中学校代表者に対する実施意義等の説明
- 3 職場体験学習(5日間) モデル校・モデル地域の指定

- (1) モデル校 県立中等教育学校前期課程3校
- (2) モデル地域 11市町(地域内の全中学校48校)

4 事業の啓発

- (1) えひめジョブチャレンジU-15フェスタの実施
- (2) 職場体験レポートの作成・配布

県立学校校舎等整備事業費 192,003

県立学校施設に係る個別施設計画を策定するとともに、児童生徒数が増加した宇和特別支援学校の食堂棟を改築するほか、早急に対応が必要な施設の改修を行う。

- 1 個別施設計画の策定(66校)
- 2 宇和特別支援学校(食堂棟)
改築設計及び改築工事
- 3 松山豊学校(寄宿舎)
給水管改修
(県立学校教育環境整備基金を充当)

◎ えひめ丸大規模改修事業費 112,694

えひめ丸の長期的な利用を図るため、定期検査の結果等を踏まえた改修等を行う。

1 改修内容

- (1) 船体部 脱出用シューターの更新、航海計器類、漁獲物取込装置のオーバーホール など
- (2) 機関部 海水関連配管の更新、電気設備のオーバーホール など

2 改修期間

30～31年度

(県立学校教育環境整備基金を充当)

学校総合防災力強化推進事業費 4,598

児童生徒等への防災教育の推進、各学校の防災管理担当者育成により総合的な防災力を強化する。

- 1 学校防災教育実践モデル地域研究推進事業(東・中・南予各1地域)
 - 2 学校防災アドバイザー派遣事業
 - 3 防災管理担当者等研修会
 - 4 学校防災教育推進委員会の設置
- (一部国10/10)

県立学校教職員防災士養成事業費

3, 047

県立学校の総合的な防災力の向上を図るため、教職員を防災士として養成するとともに、資格取得者への実践的な研修を行う。

- 1 養成する防災士数
132人(県立学校1校当たり2人を養成)
- 2 養成方法
県民環境部所管の防災士養成促進事業における防災士養成講座を受講
- 3 教職員防災士レベルアップ研修

通学路安全推進事業費

1, 583

通学路の安全を確保するため、学校に通学路安全対策アドバイザーを派遣する。

- 1 県通学路安全対策推進委員会の設置(委員12人、年2回)
- 2 市町連絡協議会の設置
- 3 通学路安全対策アドバイザー派遣事業(3人×12回)
(1)派遣先 公立小学校
(2)内容 通学路の安全確保に向けた助言及び指導
(国 10/10)

高校生自転車交通マナー向上対策事業費

1, 783

高校生の交通ルール遵守や交通マナー向上を図るため、「シェア・ザ・ロード」に基づく交通安全教育を強化する。

- 1 自転車交通マナー向上対策実践指定校(6校)
(1)生徒に対する啓発・実践 (3)実践成果の普及
(2)保護者に対する啓発・実践
- 2 高校生自転車交通マナーアップ会議(年1回)
(1)時期 31年2月
(2)内容 実践指定校の取組発表、パネルディスカッション など

○ 産業教育ICT機器整備事業費

60, 937

- 1 整備校 16校
三島、新居浜南、新居浜工業、西条農業、東予、今治工業、北条、松山南砥部分校
松山工業、松山商業、東温、伊予農業、大洲農業、八幡浜工業、宇和島水産、吉田
- 2 整備機器 パソコンネットワーク学習システム

ICT教育推進事業費

9, 800

産学連携の下、電子黒板機能付きプロジェクタやタブレット端末を活用した効果的な指導方法や教材の研究・開発に取り組むことにより、県立学校におけるICT教育の推進を図る。

- 1 ICT教育推進委員会
総合教育センター及び実践校での研究内容等の検討
- 2 総合教育センターにおける取組
授業研究会、タブレット教材の検討・整理・作成
- 3 ICT教育研究実践校
(1)指定校 2校(松山商業、伊予)
(2)内容 電子黒板機能付きプロジェクタやタブレット端末等を活用した授業の実践研究

アクティブ・ラーニング型授業環境検証事業費

652

生徒の思考力・判断力・表現力等の新しい時代に必要となる資質・能力を育成するため、電子黒板等の活用について検証するとともに、Wi-Fi等のICT環境の整備計画を定める。

- 1 えひめインタラクティブ学習フェスタ
タブレット端末、電子黒板を活用した授業参観を通じた情報共有
参加者 県立高校等の教職員 会場 環境整備拠点校(松山東、松山商業)
- 2 ICT環境整備に係る視察
視察先 佐賀県教育委員会、徳島県教育委員会、奈良市立一条高等学校

◎ ICTスキルズ向上事業費

1, 006

小学校におけるプログラミング教育必修化等への対応のため、ICTを活用できる教員及び高度情報化社会で活躍できる人材の育成を図る。

- 1 新学習指導要領への対応
ワーキンググループ会議の設置(研究推進委員6人、年3回)
- 2 人材の育成に向けた取組
(1)PGスペシャリスト養成事業(5日間) プログラミング教育のスペシャリストを育成
(2)PGスキルアップ事業(年3回) 最低限必要なスキルを習得
(3)PG名人フェスタinえひめの開催 講演会、プログラミング体験 など

英語コミュニケーション能力ボトムアップ事業費

2, 158

- 1 教員の英語力・指導力の向上
 - (1) 外国語指導力向上事業 研修の実施(年3回)
 - (2) 英語力向上講座 16日間で44時間の講座を実施(年2回)
- 2 児童生徒の英語力の向上
スーパーグローバルハイスクールとの連携 SGH指定校の発表会への参加(中学生)

えひめ英語力向上特別対策事業費

25, 913

- 英語教員の研修や小中高が連携した検証テスト及びTOEIC等の外部検定試験等に取り組み、中高生の実践的英語力の向上を図る。
- 1 英語力検証テスト 英語検定3・4級相当の問題を県教委で作成(年間2回各中学校で実施)
 - 2 英語教育推進校 1校指定
英語教育フェスタの開催(東・中・南予)
 - 3 チャレンジサマー
スクール 高校生を対象に2泊3日の英語キャンプを実施(100人)
大学教授等のセミナー、留学生等によるワークショップ
 - 4 英語力向上講座 外国人講師及び英語担当教員による講座の実施
 - 5 外部検定チャレンジ TOEIC及びGTECを活用し、生徒の英語力を検証(モデル校各3校)
 - 6 県小中高生英語力
向上委員会 大学教授等の講義・演習、意見交換 など
参加者 県立学校(中等含む)英語担当教員
公立小中学校英語教育推進リーダー など

外国語指導助手招致事業費

74, 067

- 1 招致人数 14人
- 2 招致場所 県立高校
- 3 業務内容 (1) 英語担当教員の現職教育
(2) 学校訪問指導
(3) 英語教育クリニック など

愛媛学びのシステム活用事業費

22, 234

- 全国上位の学力水準を維持するため、基礎と応用による学力の育成を図るとともに、検証改善システムの充実や学力の強化、課題の克服など学力向上への取組を推進する。
- 1 検証改善システム
 - ・ 学力向上推進主任管内別研修会(年2回)
 - ・ 学校の教育力向上推進委員会(市町設置)との連携
 - ・ 県学力診断調査の実施(小5・中2)
 - 2 学力強化システム
 - ・ 応用力強化シート及び基礎力強化シートの作成
 - 3 課題克服システム
 - ・ 放課後子ども教室等への学習プリントの提供
 - ・ こども読書通帳(みきやん通帳)の配付(小4~6)

高校生アクティブ・ラーニング推進事業費

2, 654

課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学習を促す「アクティブ・ラーニング」に先進的に取り組むことにより、生徒の学ぶ力を育み、本県の未来を拓く人材の育成を図る。

- 1 アクティブラーニング推進拠点校
 - (1) 拠点校 10校(3年間指定)
 - (2) 取組内容
 - ・ 推進委員会の設置、委員の選定(2人)
 - ・ 育成する生徒像の設定
 - ・ アクティブラーニングによる授業実践
 - ・ アクティブラーニングと一斉授業の在り方研究
 - ・ 講演会、校外での体験活動
 - ・ グループ校への授業公開
- 2 アクティブラーニング推進グループ校
 - (1) グループ校 全ての県立高校等を10グループに編成
 - (2) 取組内容
 - ・ 推進委員の選定(2人)
 - ・ 拠点校の公開授業への参加
 - ・ 推進委員会(拠点校)での研究協議
- 3 拠点校での取組内容をまとめたDVDを作成・配付

地域に生き地域とともに歩む高校生育成事業費

9, 874

地域と連携した魅力ある学校づくりプランの企画・提案・実践を通して、生徒の計画力・判断力・実践力・コミュニケーション力を育成し、将来の地域を担う人材の育成を図る。

- 1 30年度事業(1年目)
 - (1) 教員のマネジメントスキル指導力の育成 プロジェクトマネジメント研修の受講
 - (2) 生徒のマネジメントスキルの育成 プロジェクトマネジメント講座の受講 など
 - (3) プレゼンテーション審査会 プラン実践校8校程度を選定(31年度実践校)
- 2 30年度事業(2年目)
 - (1) 29年度選出11校の8プラン実践 地域のNPO等と連携しながら実践
 - (2) 中間報告書の提出 学校HPでの公表、進捗状況の確認
 - (3) 成果発表会 全ての県立学校から参加を募り、成果を普及

地域産業スペシャリスト育成事業費

6, 639

地域や産業界と連携し、地元で学び地元企業で活躍するプロフェッショナル人材を育成する。

- 1 対象
職業学科・総合学科を設置する県立学校32校
- 2 内容
 - (1) 次代を担うスペシャリスト育成講座
工業科6校 企業技術者等による「匠の技教室」、デュアルシステム、マッチングフェアの開催
 - (2) 農林水産業スペシャリスト育成講座
農業科12校 4校のモデル校と8校の連携校によるGAP学習会の実施 など
水産科1校 漁家、水産食品会社等による講演会、地域水産物を活用した6次産業化の取組
 - (3) 中学生一日体験フェアの開催
内 容 職業学科・総合学科で学ぶ生徒による研究発表、実演展示 など
参加者 県内中学生・保護者(約200人)

スーパープロフェッショナルハイスクール推進事業費

8, 007

高等学校において、高度な知識・技能を身に付け、社会の第一線や地元企業で活躍するプロフェッショナル人材の育成を推進する。

対象校	今治工業高校(1・2・3年生対象)	宇和島水産高等学校(1・2・3年生対象)
事業期間	28～30年度(3年間)	29～31年度(3年間)
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・地元企業の技術者等による匠の技継承講座 ・海外勤務経験者とのグループワーク ・造船技術探究フィールドワーク ・アドバイザーの配置 ・運営指導委員会(年3回)の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション能力等の育成に関する研究 ・専門的な知識、技術の育成に関する研究 ・コンピテンシーに係る評価方法に関する研究 ・アントレプレナーシップの育成に関する研究 ・運営指導委員会(年2回)の開催

(国 10/10)

高校卒業者職場定着促進事業費

3, 432

高校在学中におけるキャリア教育の充実と卒業後1年以内の重点的な支援により、就職する高校生の職場定着の促進を図る。

- 1 新卒者フォローアッププログラム
 - (1) 対象校 県立高等学校、県立中等教育学校 55校
 - (2) 内容 卒業生へのアンケート、就職先企業訪問、「新規卒業者との集い」の開催
- 2 キャリア教育充実プログラム
 - (1) 対象校 職業学科設置校 13校
 - (2) 内容 インターンシップ、ビジネスマナー講座、企業説明会 など
- 3 キャリア教育探究プログラム
 - (1) 対象校 普通科設置校など 33校
 - (2) 内容 インターンシップ、大学等での体験学習 など

主権者教育推進事業費

1, 210

高校生に政治や選挙への関心を持たせ、政治的教養を育む教育を推進する。

- 1 主権者教育研究指定校
 - (1) 指定校 3校(東・中・南予各1校)
 - (2) 内容
 - ・政治的教養を育むための教育プログラムの開発
 - ・3年間を見通した系統的なカリキュラムの開発
 - ・模擬投票など体験学習の実施、講演会の開催 など
- 2 主権者教育実践校
 - (1) 実践校 64校(指定校以外の県立学校等)
 - (2) 内容 模擬投票など体験活動の実施、講演会の開催 など
- 3 報告書の作成・配付

スーパーグローバルハイスクール推進事業費

14, 200

高等学校等において質の高いカリキュラムの開発・実践等に取り組み、国際的に活躍できるグローバルリーダーの育成を推進する。

対象校	松山東高等学校(1・2・3年生対象)	宇和島南中等教育学校(4・5・6年生対象)
事業期間	26～30年度(5年間)	27～31年度(5年間)
事業内容	・総合的な学習の時間における課題研究 ・テーマ別協同的研究活動 ・県内、海外フィールドワーク ・研究成果報告書の作成 ・運営指導委員会(年2回)の開催	・テーマ別課題研究 ・講演会の実施 ・国内、海外フィールドワーク ・研究成果報告書の作成、発表会の開催 ・運営指導委員会(年2回)の開催

(国 10/10)

グローバル人材育成推進事業費

5, 690

本県の高校生に国際的な視野を持たせるとともに海外留学の支援を行う。

- 1 高校生海外留学フェア
外国の高等学校への留学希望者に対して留学に関する情報提供や個別相談を行う。
- 2 グローバル語り部派遣
留学経験者等を県立学校に派遣し、留学経験等について講演する。
- 3 高校生海外留学補助金
留学希望の県内高校生に留学補助金を交付する。

(国 10/10)

愛ある愛媛の道徳教育推進事業費

7, 680

家庭・学校・地域が一体となった道徳教育を推進するため、実践研究を行う。

- 1 特色ある道徳教育推進事業
(1) 研究指定校 小学校3校、中学校3校 (2) 指定期間 2年間
- 2 道徳教育コーディネーター養成事業
道徳教育パワーアップ研究協議会(1日)
- 3 教科化に対応した指導資料及び地域教材映像資料作成
(1) 評価に関する指導資料作成(1,000部) (2) 地域教材映像資料作成(600部)

(国10/10)

「森林わくわく体験」推進事業費

1, 732

- 1 「森はともだち」推進事業
小中学校において、総合的な学習の時間に森林をテーマにした体験活動を行う。
(1) 事業主体 小学校2校、中学校1校
(2) 内 容 身近な森林や河川の状況の調査、森林地域における野鳥や動植物の保護 など
- 2 「森のようちえん」推進事業
幼稚園において、森林に親しむ活動を教育課程に位置付け、五感を通じた体験学習を行う。
(1) 事業主体 幼稚園2園
(2) 内 容 森を散歩、森林を生かした遊びの展開 など
(森林環境保全基金を充当)

◎ 青少年長期宿泊型体験学習事業費

1, 370

長期宿泊型の体験活動を通して、子どもの自己肯定感の醸成を図る。

- 1 体験学習活動
(1) 参加者 小学校高学年30人、高校生(サポート)10人、引率者8人
(2) 内容 自然体験学習、歴史・文化に関する体験学習活動など(6泊7日)
- 2 活動内容の検証及び報告書の作成
(国10/10)

学校給食地域食文化継承モデル事業費

4, 304

地産地消の推進及び地域食文化の継承を図るため、学校給食における地場産物の活用率向上や郷土料理の提供機会の拡大を図る。

- 1 モデル事業推進委員会の開催(年3回)
- 2 モデル事業推進ワーキンググループ会議の開催(年5回)
- 3 先進地視察・調査の実施
- 4 食育ステップアップ研修会の開催(年1回)

(国 10/10)

- ◎ **部活動指導員配置促進事業費** 12,730
 運動部活動における教員の負担軽減や生徒の競技力向上などを図るため、部活動指導員を配置する。
- 部活動指導員の配置

配置人数	(1) 中学校	42人	(国1/3 県1/3(市町1/3))
	(2) 中等教育学校	3人	(国1/3 県2/3)
	(3) 県立高等学校	5人	
 - 運動部活動指導者資質向上研修会(年1回)

- ◎ **中堅教諭等資質向上研修費** 10,690
- キャリアアップ研修Ⅰ(在職期間5年)

(1) 対象者	197人(小中90、県立65、養護37、栄養5)	(1) 対象者	48人
(2) 内容	総合教育センター等研修 6日	(2) 内容	総合教育センター等研修 4日(養護・栄養2日)
 - キャリアアップ研修Ⅱ(在職期間10年又は35歳に達した者)

(1) 対象者	251人(小中196、県立50、幼5)	(1) 対象者	48人
(2) 内容	総合教育センター等研修 13日(幼7日)	(2) 内容	総合教育センター等研修 4日(養護・栄養2日)
 - キャリアアップ研修Ⅲ(40歳に達した者)

(1) 対象者	48人	(1) 対象者	48人
(2) 内容	総合教育センター等研修 4日(養護・栄養2日)	(2) 内容	総合教育センター等研修 4日(養護・栄養2日)

- 教職員業務改善モデル事業費** 3,200
 教員が子どもと向き合う時間を確保するため、重点モデル地域において小中学校現場での一体的・総合的な業務改善の推進を図る。
- 運営委員会の開催(年3回)
 - 意見交換会の開催(年1回)
 - 重点モデル地域における実践研究内容

(1) 新居浜市	外部人材による専門スタッフの配置・派遣、学習等の支援員の学校の配置 など
(2) 西条市	診断士等によるコンサルティングの実施、外部人材による支援体制の構築 など
(3) 松前町	教職員の意識改革と学校マネジメント強化のための研修、学校事務の機能強化 など
 - 成果報告会の開催(年1回)
(国10/10)

- ◎ **スクール・サポート・スタッフ配置事業費** 13,585
 教員の負担を軽減し、児童生徒への指導等に注力できる体制を整備するため、採点や教材作成の補助、調査の集計など教員の事務を補助するスクール・サポート・スタッフを配置する。
- スクール・サポート・スタッフの配置

業務内容	採点や教材作成の補助 各種調査やアンケート等の集計 ホームページの更新 など
------	--
 - 配置人数

(1) 小中学校	20人	(国1/5 県2/5(市町2/5))
(2) 県立学校	6人	(国1/3 県2/3)

- ◎ **特別支援学校空調設備整備事業費** 435,401
 自らの体調管理が困難な障がいのある児童生徒が在学する特別支援学校に空調設備を整備し、安心して学校生活を送れるよう教育環境の改善を図る。
- 整備箇所 全県立特別支援学校(9校)の普通教室、特別教室の全教室
児童生徒が使用する部屋(保健室、寄宿舎)など
 - 整備台数 新設251台、更新28台
(県立学校教育環境整備基金を充当)

- キャリア教育・就労支援充実事業費** 9,062
 特別支援学校におけるキャリア教育・就労支援の充実に取り組み、児童生徒の自立と社会参加を図る。
- 特別支援学校キャリア教育推進連絡協議会委員 各校9人(年2回)
 - 特別支援学校技能検定 清掃、接客、販売実務、情報の各サービス部門(県検定2回、地区検定2回)
 - 就労支援充実事業(国1/3 県2/3) 就労支援コーディネーターの配置(3人)(東・中・南予地区の特別支援学校に配置)
 - 早期からのキャリア教育充実事業 キャリアガイド教室の実施(各校年6回) など

- **特別支援学校医療的ケア実施体制充実事業費** 2,704
 医療的ケアに精通した医師等と連携した校内支援体制を構築し、安全・安心な医療的ケア実施体制の充実を図る。
- 実施校 しげのぶ特別支援学校
 - 内容

(1) 医療的ケア実施体制充実事業運営協議会の設置
(2) 外部専門家による指導・助言
(3) 人工呼吸器の管理等の高度な医療的ケアに対応するための研修
- (国10/10)

特別支援教育教職員資質向上事業費

762

教職員の資質と指導力、専門性の向上を図るための研修等を行う。

- 1 管理職研修会
(1) 特別支援学級設置学校長管内別研究協議会
(2) 管理職のための特別支援教育リーダーセミナー
- 2 特別支援学級担任者等研修会
・新担任者基礎研修
・2年目強化研修
(一部国1/3 県2/3)
- 3 特別支援教育コーディネーター研修会
- 4 特別支援教育教育課程説明会
- 5 高等学校における特別支援教育推進研修会
- 6 高等学校における通級指導実践研究

特別支援学校文化芸術支援事業費

2, 988

文化芸術団体による実技指導を通して、知的障がい特別支援学校生と地域の高校生の生きる力や主体的に社会参加していく態度等を養い、共生社会の形成に向けた特別支援教育の理解啓発を図る。

- 1 対象校 宇和特別支援学校(高等部3年生 約30人)、宇和高等学校(2年生 約20人)
- 2 内容 (1) ワークショップ 坊っちゃん劇場劇団員の派遣(3~4人、年18回)
(2) 成果発表 宇和文化会館でのミュージカル上演
(国10/10)

◎ いじめSTOP愛顔の子どもサポート事業費

7, 703

児童生徒及び大学生、PTA、地域住民等が一体となり、いじめ防止に向けた学校づくりを推進するとともに、県全体への普及啓発及びサポート体制の構築を図る。

- 1 いじめSTOP! 愛顔あふれる地域フォーラム
(1) 時期、場所 30年12月(東・中・南予各1か所)
(2) 参加者 県内の小・中・高校生(各350人)、大学生、保護者、地域関係者など(各150人)
(3) 活動内容 いじめ問題の現状、児童生徒と地域関係者等との討議 など
(4) 普及啓発 えひめ愛顔の子ども新聞の発行(18万1,000部)
- 2 全国いじめ問題子供サミット
(1) 時期、場所 31年1月 東京都
(2) 参加者 県代表4人(小・中学生各2人)

「いじめ相談ダイヤル24」開設事業費

7, 599

いじめ問題への対応に万全を期すため、24時間体制でいじめ問題の根絶に向けた電話相談を実施する。

- 1 設置場所 総合教育センター教育相談室
- 2 相談時間 24時間対応(年末年始を除く)
- 3 相談員 教員OBなど 16人
- 4 業務 いじめ問題の根絶に向けた児童生徒への電話相談
- 5 システム 平日・8:45~17:15 総合教育センター設置の相談電話で職員が対応
・17:15~8:45 相談員が携帯電話で対応
土日祝日・24時間、相談員が携帯電話で対応
(国1/3 県2/3)

人権・同和教育推進活動費

3, 226

研究指定校・指定地域や研究大会の開催等により、人権・同和教育を推進する。

- 1 人権教育研究指定校・指定地域(小学校2校、中学校2校、高校1校、地域1地域)
- 2 愛媛県人権・同和教育研究大会
- 3 高等学校人権・同和教育研究推進校(高校1校)
- 4 地区別人権・同和教育研究協議会
- 5 人権・同和教育訪問
(一部国10/10)

スクールカウンセラー活用事業費

65, 192

- 1 配置
(1) スクールカウンセラー 35人
(2) スクールカウンセラーに準ずる者 18人
(3) スーパーバイザー 4人
(国1/3 県2/3)
- 2 活動
児童生徒へのカウンセリング
教職員及び保護者に対する助言・指導 など
- 3 連絡協議会(年1回)

○ 文化財保存顕彰事業費補助金

8,628

所在市町	交付先	事業内容
伊予市	伊豫稲荷神社	建造物「稲荷神社楼門」美装化
松山市	安楽寺	彫刻「木造十一面観音立像」保存修理
西予市	小野田部落	彫刻「木造阿弥陀如来坐像」保存修理
松山市	常信寺	史跡「松平定政の霊廟」保存修理
今治市	大山祇神社	名勝「御串山」災害復旧
今治市	甘藷地藏史跡保存会	史跡「甘藷地藏」覆屋修理
西条市	久門良子	史跡「土居構跡」石積修復
四国中央市	三皇神社	天然記念物「棹の森」危険木伐採

県補助率 1/3以内

美術館展示事業費

80,140

企画展の開催

区分	分野	テーマ	開催時期	
第1回	洋画	開館20周年記念 没後40年 熊谷守一 ～生きるよろこび～	30年 4月～6月	56日間
第2回	デザイン・写真・彫刻	『坊ちゃん』×∞(仮)展	30年 6月～9月	56日間
第3回	日本美術・文学資料	川端康成・東山魁夷コレクション展	30年 9月～10月	44日間
第4回	陶芸・テキスタイル	石本藤雄2018展	30年 10月～12月	44日間
第5回	西洋絵画	印象派への旅 バレルコレクション展	30年 12月～31年 3月	78日間

えひめ愛顔のジュニアアスリート発掘事業費

25,632

県下の子どもの潜在的才能を見出し、トップアスリートとして育成・強化するための一貫した指導体制を構築する。

- 1 えひめ愛顔のジュニアアスリート発掘事業実行委員会
 - (1) 実行委員会(17人、年2回)
 - (2) 幹事会(8人、年4回)
- 2 専門委員会
 - (1) 選考委員会(7人、年4回)
 - (2) 育成プログラム委員会(年3回)
 - ・ 身体能力開発プログラム部会(4人)
 - ・ 知的能力開発プログラム・保護者サポートプログラム部会(4人)
 - (3) 専門プログラム委員会(11人、年4回)
- 3 愛顔のジュニアアスリートの選考、認定(小学4年生～中学2年生)
 - (1) ファーストライアル(小学4年生100人、他学年各10人)
 - (2) セカンドトライアル(小学4年生20～30人、他学年5人程度)
 - (3) 本人・保護者の意向確認、健康チェック
- 4 愛顔のジュニアアスリートの育成
 - (1) 育成プログラム
 - ・ 身体能力開発プログラム等(月2～3回)
 - ・ 特別プログラム(年3回)
 - (2) パスウェイプログラム(年6回)
(スポーツ推進基金を充当)
 - (3) 高評価者サポートプログラム
JSC等主催トライアウトへの派遣 など
 - (4) 修了生に対するフォローアップ(ゼロ予算)

教職員設置費

100,529,673

小 学 校	5,143 人 → 5,146 人 (3 人)
中 学 校	3,054 人 → 3,041 人 (△ 13 人)
中等教育学校	208 人 → 210 人 (2 人)
高等 学 校	2,610 人 → 2,605 人 (△ 5 人)
特別支援学校	1,031 人 → 1,022 人 (△ 9 人)
計	12,046 人 → 12,024 人 (△ 22 人)

教職員研修旅費

497,562

小 学 校	5,177人
中 学 校	3,055人
中等教育学校(前期)	77人
高 等 学 校	2,649人
教 職 員	888人
特別支援 寄宿舎指導員	97人
計	11,943人

- **日本スカウトジャンボリー派遣費補助金** 700
 全国のスカウトが会する日本スカウトジャンボリーに県代表を派遣するための経費を補助する。
 1 期 間 30年8月3日(金)～11日(土)
 2 場 所 石川県珠洲市
 3 派遣数 190人(スカウト160人、指導者30人)

- 青少年教育団体振興事業費** 1,000
 本県の青少年育成と地域の教育力向上を図るため、青少年教育団体の活動促進と活性化を支援する。
 1 補助対象事業 青少年教育団体が実施する団体活動の充実や活性化に資する事業
 2 選考方法 県内の青少年教育団体に対して公募し、社会教育委員会議に諮り決定
 3 補助率 県1/2以内

- **和紙芸術展示更新事業費** 3,078
 「四国遍路文化」を展示で発信するため、弘法大師空海の生涯を表現している和紙彫塑家・内海清美氏の作品「密●空と海」をダイジェスト版に更新展示する。
 1 展示作品 「密●空と海」ダイジェスト版
 2 展示方法 音響やLEDを使用した芸術的な照明演出により魅力的な展示空間を構成
 3 スケジュール 30年8月31日 後半場面の展示終了
 30年9月上旬～中旬 撤去・改装
 30年9月15日 ダイジェスト版の開幕

- 「森に親しむ博物館」開催事業費** 2,996
 1 「森に親しむ博物館」
- | 会 場 | 期 間 |
|-----------------|-----|
| 松山市北条ふるさと館(松山市) | 9月 |
| 宇和米博物館(西予市) | 10月 |
| 総合科学博物館(新居浜市) | 11月 |
- | 項目名 | 展 示 内 容 |
|--------|--------------------|
| 森の植物 | 植物のレプリカ標本(新規製作) など |
| 森のいきもの | 森に棲む哺乳類、鳥類、昆虫の標本 |
- 2 「関連イベント」
 (1) ミュージアムツアー(各地区会場)
 (2) 工作イベント「木の葉で遊ぼう」「タネで遊ぼう」(総合科学博物館)
 (森林環境保全基金を充当)

- 子どもと本の出会い推進事業費** 1,212
 1 子どもと本の出会い推進事業
 (1) みんなで聞こう 県立図書館において小中学生等を対象に開催
 (2) おはなし会 県立図書館において幼児・小学生等を対象に開催
 (3) ブックトーク 小中学校、高校、特別支援学校を会場にした読み聞かせ など
 2 子どもの本棚応援事業
 学校等教育施設への宅配便による児童図書の出貸
 3 子どもの読書活動推進のための研修会
 対象 教職員、図書館員、幼稚園教諭、保育士、読書ボランティア など

- 重要伝統的建造物群保存修理費補助金** 4,000
- | 交付先 | 事業内容 | 期 間 |
|-----|--------------------------|-------|
| 西予市 | 卯之町伝統的建造物群保存地区
保存修理 | 23年度～ |
| 内子町 | 八日市護国伝統的建造物群保存地区
保存修理 | 20年度～ |
- 県補助率 国庫補助残額の1/3以内

- 重要文化財等保存修理費補助金** 5,114
- | 所在市町 | 交付先 | 事業内容 | 所在市町 | 交付先 | 事業内容 |
|------|--------|--------------------|-------|------------|-------------------|
| 松山市 | 伊佐爾波神社 | 重文伊佐爾波神社美装化 | 四国中央市 | 真鍋家 | 重文真鍋家住宅保存修理 |
| 今治市 | 大山祇神社 | 重文大山祇熏韋威胴丸
保存修理 | 宇和島市 | 宇和島伊達文化保存会 | 国指定名勝天赦園「春雨亭」保存修理 |
- 県補助率 国庫補助残額の1/3以内

- **第60回中国・四国ブロック民俗芸能大会開催事業費** 6,000
 1 時 期 30年12月1日(土)～2日(日)
 2 場 所 松山市(ひめぎんホール)
 3 参加者 一般参加者、出演団体者など 約1,000人

県内遺跡発掘調査費

353, 042

1 県内遺跡確認調査

- (1) 県及び国が事業主体の土木工事予定地において、遺跡確認調査(踏査・試掘)を行う。
- (2) 調査予定 15件
(国1/2 県1/2)

2 大規模埋蔵文化財発掘調査

- (1) 今治道路等建設に伴う埋蔵文化財の発掘作業等を国土交通省から受託して実施する。
- (2) 委託内容 発掘作業及び整理作業 (3) 委託先 (公財)県埋蔵文化財センター
(国10/10)

地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業費

1, 244

地域ぐるみで子どもの安全を守る体制の整備充実を図る。

1 スクールガード・リーダーによる巡回指導など

- (1) 巡回指導 実施市町の全小中学校
- (2) スクールガード・リーダー育成講習会
参加者 教職員OB、PTA役員OBなど

2 スクールガード養成講習会

- 参加者 各地区の見守り隊、各小中学校管理職・安全担当者、PTA、地域関係団体など

3 子ども見守り活動

- 内容 登下校時のパトロール、防犯訓練の実施、通学安全マップの作成
(国 1/3 県1/3(市町1/3))

えひめ子ども健康サポート推進事業費

1, 640

地域全体で子どもの健康をサポートする体制を構築し健康課題の解決を図る。

- 1 えひめ子ども健康サポート推進協議会の設置、運営(委員11人、年2回)
- 2 地域検討委員会の設置、運営(南予3か所、構成9人、年2回)
- 3 学校保健課題解決支援事業研修会の開催(年1回)
- 4 薬物乱用防止教室講習会の開催(年1回)
- 5 性に関する教育研修会の開催(年1回)
(国 10/10)

スクールヘルスリーダー派遣事業費

2, 772

退職養護教諭を養護教諭未配置校へ派遣し、現代的健康課題に対応できるよう環境の改善を図る。

- 1 スクールヘルスリーダー連絡協議会(21人、年2回)
- 2 スクールヘルスリーダーの派遣
派遣先 養護教諭未配置校 10校(各15回)
(国 1/3 県2/3)

がん教育推進事業費

990

がんに対する正しい理解やがん患者に対する正しい認識など、学校における「がん」教育を推進する。

- 1 がん教育推進協議会(委員11人、年2回)
(1) がん教育の進め方についての協議 (2) ワーキンググループによる啓発資料の作成
- 2 研修会、公開授業の実施
(国 10/10)

えひめ子どもスポーツITスタジアム事業費

1, 239

ホームページを活用して、幼児・児童の体力向上、スポーツへの参加意欲の向上を図る。

- 1 年間シリーズの運営
システムの運用管理委託、「創作部門」審査会
- 2 表彰式
最優秀校、優秀校等の表彰

学校体育指導力向上事業費

6, 193

学習指導要領に沿った質の高い授業の実践や指導者の資質向上及び指導力強化を図る。

- 1 武道等指導推進委員会(委員15人、年2回)
- 2 武道・ダンス等指導研修会(年1回)
(1) 開催場所 県武道館 (2) 参加対象 保健体育科教員
- 3 武道・ダンス等授業研究指定校(東・中・南予各1校)
公開授業の実施(各校年1回)、授業づくりワーキンググループの設置
- 4 地域連携指導実践校(公立中学校延べ10校)
- 5 小学校体育専科教員配置校授業研究(6校)
- 6 体育・保健体育授業づくり研修会(20市町)
(国 10/10)

スポーツ大会活動推進事業費

7, 445

各種スポーツ大会の充実を図る。

- 1 愛媛県高等学校総合体育大会
(1) 全日制 30年6月上旬 32種目 8,500人
(2) 定通制 30年9月上旬 6種目 400人
- 2 愛媛県中学校体育大会
(1) 総体 30年7月下旬 18種目 5,500人
(2) 新人大会 30年10～11月 17種目 4,500人
- 3 愛媛県小学校通信記録会
30年6～11月 2種目 25,000人
- 4 四国ブロック高等学校選手権大会
30年6月中旬 7種目 1,600人
- 5 四国ブロック中学校体育大会
30年8月上旬 5種目 1,000人
- 6 全国都道府県対抗駅伝競走大会
31年1月中旬 1種目 30人
- 7 四国地区特別支援学校知的障害教育校
水泳大会 30年7月下旬 400人

被災児童生徒就学支援事業費

2, 789

東日本大震災により被災し、本県へ避難している就学困難と認められる児童生徒に対して就学等の援助を行う市町等への補助

- 1 被災児童生徒就学援助事業
- 2 被災児童生徒等特別支援教育就学奨励事業
(国10/10)

教員の資質向上推進事業費

427

- 1 教員の資質向上審査委員会の設置
(1) 委員 6人(学識経験者、医療関係者等)
(2) 会議 指導力不足等教員の認定、復帰についての検討(年2回)
- 2 指導力不足等教員に係る研修
(1) 県総合教育センター等研修 個々の教員の態様に応じた研修の実施
(2) 連絡協議会 年2回

環境教育推進事業費

1, 004

産業廃棄物の排出や減量化、資源の循環的な利用についての理解を深めるため、研究推進校を指定する。

- 1 研究指定校 小学校2校、中学校1校、県立高校1校
- 2 内 容 産業廃棄物処理場、企業等の見学
地域の自然環境に目を向けた体験活動
学習成果の発表
(資源循環促進基金を充当)

ハートなんでも相談員設置事業費

8, 337

生徒や保護者が気軽に相談できる体制の充実を図るため、学校現場に相談員を配置する。

- 1 ハートなんでも相談員設置事業
(1) 事業主体 市町
(2) 設置校 公立小学校65校、公立中学校21校(スクールカウンセラー配置校等を除く)
(3) 相談員 退職教員、青少年団体指導者等から選考のうえ市町が委嘱
(4) 補助率 1/3
- 2 教育相談員等合同研修会
臨床心理士等から専門的な指導・助言を受けることなどにより相談員等の資質の向上を図る。

スクールソーシャルワーカー活用事業費

6, 380

社会福祉等の知識・技術を有するスクールソーシャルワーカーを活用し、いじめ、不登校、暴力行為等の課題解決への対応を図る。

- 1 スクールソーシャルワーカー活用事業
(1) 事業主体 19市町
(2) 配 置 ①スクールソーシャルワーカー(26人、年間90日) ※市町教育委員会に配置
構 成 社会福祉士、退職教員、元児童福祉関係者 など
内 容 問題を抱える児童生徒が置かれた環境への働きかけ
関係機関とのネットワークの構築、連携・調整
児童生徒等に対する相談・支援 など
(国1/5 県2/5(市町2/5))
②スーパーバイザー(3人、年間5日) ※県教育委員会に配置
内 容 スクールソーシャルワーカーへの指導・助言 など
(国1/3 県2/3)
- 2 連絡協議会(年1回)

科学の甲子園ジュニア県代表選考事業費

1,005

中学生が科学を学ぶ楽しさ・意義を実感できる場を提供し、理数教育の充実を図る。

1 県大会の開催

開催日 30年8月 場所 生涯学習センター

内容 実技競技、筆記競技、講演

(成績上位2チームを「科学の甲子園ジュニア全国大会」県代表に選考)

2 県代表チームを対象とした研修会の実施(年2回)

(県1/4 (国研)科学技術振興機構3/4)

情操教育推進事業費

1,189

知性と感性の調和のとれた発達を目指し、心身ともに健全な児童生徒を育成するため、豊かな情操を養う教育を推進する。

1 えひめこども美術展及び作品研究

4 豊かな器楽体験推進事業

2 合唱コンクール管内大会

5 歌いつごう日本の歌開催事業

3 吹奏楽コンクール愛媛県大会

○ 新規採用教員研修費

41,757

1 対象教員 397人(小215、中104、高51、特27)

2 内容 (1) 総合教育センター等研修 20~21日

(2) 宿泊研修 1泊2日~2泊3日

(3) 2年目フォローアップ研修 4~5日

幼稚園新規採用教員研修費

2,058

1 対象教員 19人(公立のみ)

2 内容 (1) 連絡会 年1回

(2) 園外研修 総合教育センター等研修(年6日)、宿泊研修(2泊3日)

(3) 園内研修 公立19人 指導教員(非常勤)を配置(新採1人当たり年5日)

理科教育等設備充実費

7,744

高等学校等の理科教育に関する設備を整備し、理科教育の充実を図る。

(国 1/2 県 1/2)

産業教育設備充実費

29,445

(学校名) (装置内容)

新居浜工業 立型フライス盤

伊予農業 トラクター

今治南 環境制御システム

大洲農業 小型真空包装機

(県立学校教育環境整備基金を充当)

県立学校火災等災害復旧費積立金

281

基金運用益の積立

定時制通信制課程修学奨励費

1,680

1 定時制課程

1~4年生(8人) 14,000円/月

2 通信制課程

1~4年生(2人) 14,000円/月

県立学校教育環境整備基金積立金

4,205

基金運用益の積立

学校組織マネジメント研修事業費

400

学校経営における実践的指導力を強化するため、管理職に対する研修を実施する。

1 対象者 県立学校教頭61人

2 研修日数 1日

3 研修内容 学校組織マネジメント、危機管理 など

英語担当教員海外派遣事業費

1,800

1 派遣先及び派遣人員 英語圏2人(中学校・高等学校英語担当教員各1人)

2 派遣時期 30年7~9月

高校生おもしろ科学コンテスト事業費

1,262

数学・理科等に関する科学コンテストを実施することにより、科学的な見方や考え方を養う教育を実践する。

- 1 対象 県内高等学校、中等教育学校、高等専門学校在籍の生徒のグループ(1チーム6～8人)
 - 2 問題作成 問題作成委員会(24人、6回開催)により、2種類(本選用、予選用)作成
 - 3 高校生おもしろ科学コンテストの実施
 - (1) 予選 各高校等で実施(本選に出場する12チーム程度を選抜)
 - (2) 本選 愛媛大学で実施
最優秀チームを「科学の甲子園全国大会」県代表とする。
- (県1/2 (国研)科学技術振興機構1/2)

英語ディベート・コンテスト開催事業費

1,002

ディベート・コンテストを通して、生徒の英語によるコミュニケーション能力の向上を図る。

- 1 英語ディベート実施委員会(委員:東・中・南予各地区に英語担当教員20～25人)
総合的なコミュニケーション能力の育成、言語活動を活性化させるための指導方法等の研究
- 2 英語ディベート・コンテスト(1チーム4人 24チーム)
トーナメント方式によるディベート大会(優勝チームは全国高校生英語ディベート大会へ出場)

地域を担う心豊かな高校生育成事業費

3,750

高校生による地域の活性化に貢献する活動や、地域の様々な世代と交流する活動を推進する。

- 1 地域活性化プロジェクト
男女共同参画社会実現に向けた体験学習 など
- 2 地域共生プロジェクト
地域の様々な世代の人と学び合い支え合う活動 など

えひめ高校生次世代人材育成事業費

1,798

日本の次世代リーダー養成塾への参加を通して、世界的な視野で発想、思考、行動できる次世代を担う人材の育成を図る。

- 1 「日本の次世代リーダー養成塾」への参加
 - (1) 参加生徒数 県内の高校生10人
 - (2) 日程 7月下旬～8月上旬(2週間)
 - (3) 場所 福岡県及び佐賀県
 - (4) 内容
・ 各界を代表する講師陣による講義
・ 講義後のグループディスカッション
・ アジアハイスクールサミット
・ 企業の精鋭によるクラス担任制度
- 2 成果報告会(2月中旬)
 - (1) 参加者 270人(リーダー養成塾参加高校生10人、高校生各校3～5人、教員各校1人)
 - (2) 内容 リーダー養成塾参加者による成果報告、質疑応答、ワークショップ など

エネルギー教育推進事業費

10,000

- 1 エネルギー等教育充実事業
 - (1) 対象 県立学校等6校
 - (2) 実践例 エネルギー変換に関する研究 など
- 2 エネルギー等学習機器購入事業
県立学校11校に燃料電池を整備
(国 10/10)
- 3 エネルギー等教育補助事業
 - (1) 対象 1市町
 - (2) 内容 教材・備品の購入
教員研修、講師派遣 など

ESD環境教育プロジェクト事業費

400

ESD環境教育推進校を指定し、地域の環境に関する諸課題への取組を通して、持続可能な地域づくりを担う人材の育成を図る。

- 1 指定校 県立高校1校
- 2 取組内容
 - (1) ESDアドバイザー 1人配置(大学・研究機関等)
 - (2) 地域に根差した環境プログラムの作成及び研究活動
 - (3) 地域と共同で行う研究活動
- 3 成果普及 中間報告会の開催、DVD作成・配布

◎ SDGs推進人材育成事業費

1,500

SDGs推進リーダー校を指定し、プログラムに沿った取組を実践することで、SDGsを推進できる人材を育成する。

- 1 指定校 県立高校等3校(東・中・南予各1校)
 - 2 取組内容
 - (1) SDGsの現状と課題の研究(講演会の開催、フィールドワーク など)
 - (2) SDGs推進プログラムに基づいた研究活動 など
 - 3 成果普及
 - (1) ホームページ公開や成果報告書配布による情報発信
 - (2) 地域イベントでの成果物配布、研究発表会の開催等による地域への情報発信
- (「三浦保」愛基金を充当)

高校生国際交流促進事業費

1,339

異文化を理解し、他国のの人々と共生できる高校生を育成するため、日本語スピーチコンテストに出場する海外高校生との交流を図る。

- 1 海外高校生による日本語スピーチコンテスト
高校生約800人が聴衆として参加
- 2 海外高校生との交流
俳句づくり、砥部焼製作体験、マウンテンバイク交流 など

スクールライフアドバイザー活用事業費

7,427

高校生が心にゆとりを持てる環境を整備するため、県立高校に「スクールライフアドバイザー」を配置する。

- 1 アドバイザー 退職教員、青少年育成団体関係者 など
- 2 配置校 県立高等学校等のうち23校(配置を希望する学校)
- 3 職務内容 ・生徒の悩み相談、話し相手 ・教員からの相談に対する助言
・地域における情報収集、地域と学校の連携支援 ・ホームルーム活動等の支援
- 4 勤務形態 週1回(6時間程度)

◎ 学校問題解決支援事業費

2,191

1 スクールロイヤー活用事業

学校が専門家から日常的に助言を受けられる体制を整え、生徒指導上の諸問題の早期解決を図る。

- (1) 委託先 愛媛弁護士会所属弁護士(1名)
 - (2) 相談案件 諸問題対応に関する法的な相談、クレーム対応への相談 など
- ### 2 スクールガーディアンズ派遣事業
- 問題解決に向けた専門的なアドバイスや支援を行うとともに、生徒・保護者・教員の心のケアを行う。
- (1) 学校トラブルサポートチーム派遣(医師、弁護士、警察・更生機関関係者、臨床心理士 など)
 - (2) 心のレスキュー隊派遣(臨床心理士、教育センター担当者、教育事務所担当者 など)
 - (3) 対象校 公立小・中学校、県立学校

公立高等学校等就学支援金補助金

2,837,265

高校生等の修学にかかる教育費負担軽減のため、就学支援金及び再就学支援金を支給する。

- 1 対象 年収910万円未満の世帯
- 2 対象経費 授業料相当額
- 3 支給額 全日制 118,800円/年 定時制(単位制) 1,740円/単位
定時制 32,400円/年 通信制(単位制) 336円/単位

(一部国10/10)

公立高等学校等奨学給付金交付事業費

395,859

低所得世帯の高校生等の修学にかかる教育費負担軽減のため、教科書費等として給付金を支給する。

- 1 対象 住民税非課税世帯(年収250万円未満程度)
- 2 対象経費 授業料以外の教育費
- 3 支給額 全日・定時制 第2子以降 129,700円/年 第1子 80,800円/年
通信制 36,500円/年
生活保護世帯 32,300円/年(修学旅行費相当額)

(国1/3 県2/3)

いじめ防止対策体制整備事業費

2,081

いじめ防止対策の推進や重大事態等に対応するため、幅広い分野の外部専門家を活用し、解決に向けて諮問・審議・調査・支援等を行う体制を整備する。

- 1 いじめ対策アドバイザー
学識経験者・弁護士・警察OB など 計6人
 - 2 いじめ問題対策連絡協議会(年2回)
県教育委員会、各市町教育委員会、各市町小中学校長会、法務局等関係機関 など
- (国1/3 県2/3)

○ 特別支援学校スクールバス整備事業費

29,092

宇和特別支援学校の老朽化したスクールバスを更新整備する。

- 1 整備内容 大型車1台
 - 2 運行開始 31年4月
- (国10/10)

通級指導実践研究事業費

983

通常の学級に在籍する知的障がいのある児童生徒に対する通級による指導の検証を行う。

- 1 知的障がい通級指導検討会議(委員8名、年3回)
- 2 通級指導アドバイザーの委嘱、派遣(年5回)
(国10/10)
- 3 県教育委員会による実地調査(年4回)
- 4 モデル地域による取組

特別支援教育理解啓発・連携推進事業費

1,715

小中学校等における障がいのある児童生徒に対する教育の支援体制と特別支援教育に対する理解啓発の充実を図る。

- 1 専門家チーム・合理的配慮協力員等派遣推進事業
- 2 特別支援教育地域支援事業
(一部国1/3 県2/3)
- 3 特別支援教育推進事業
- 4 特別支援教育サマーセミナー

特別支援学校友達いっぱいプロジェクト事業費

1,728

障がいのある子どもとない子どもが共に学ぶ機会を増やし、障がいのある子ども自身が持っている力を積極的にアピールすることにより障がい理解の推進を図る。

- 1 ふれあい親善大使の派遣 (特別支援学校小中学部の児童生徒のうち希望者)
 - (1) 障がい理解セミナー
 - (2) 障がい者スポーツ体験交流
- 2 愛顔のふれあいフェスタ (特別支援学校3校、各校年1回)
 - (1) 大使活動報告
 - (2) 児童生徒によるパフォーマンス など
(国10/10)
- 3 各特別支援学校における普及活動

特別支援学校就学奨励費

216,404

特別支援学校への就学を奨励するため、就学に係る経費を助成する。

- ・ 教科用図書購入費
 - ・ 学校給食費
 - ・ 交通費
 - ・ 寄宿舍居住に伴う経費
 - ・ 修学旅行費
 - ・ 学用品等購入費
 - ・ 校外活動等参加費
 - ・ 新入学児童・生徒学用品費等
 - ・ 職場実習宿泊費
- (国1/2 県1/2)

奨学資金貸付金(特別会計)

329,460

(区分)

(高校・高専月額)

継続・新規

国公立・自宅	5,000円～18,000円
国公立・自宅外	5,000円～23,000円
私立・自宅	5,000円～30,000円
私立・自宅外	5,000円～35,000円